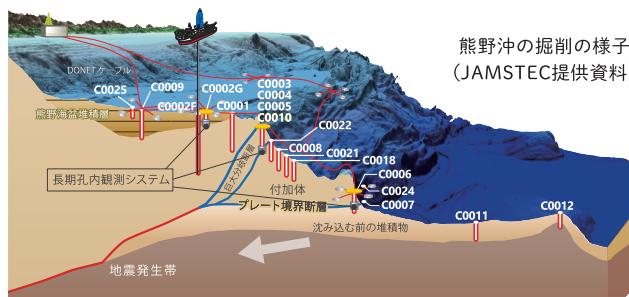


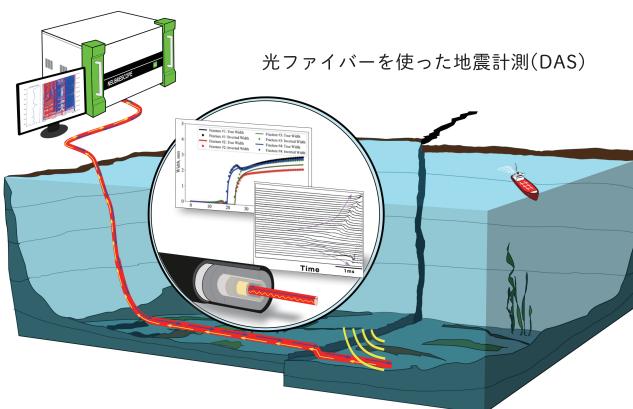
どんな研究をするのか?

地震はふつう地学で学ぶ現象です。すべりが起きるプロセスは、物理学の方程式で説明できます。また、その発生場所にあるモノの性質を理解するために、化学的な知識も重要です。スロー地震とファスト地震を理解するには、いろいろな分野の知識を総動員する必要があります。

例えば、紀伊半島沖ではこれまでにたくさんのボアホール(掘削孔)を掘り、モノ(岩石)を獲得しています。そのモノを使った室内実験研究から、岩盤の破壊や摩擦すべりがどのように起きるのか推定します。さらにその結果を使ったコンピューターシミュレーションで地震を再現します。



研究のやり方は常に進歩しています。最近では大量のデータを使った人工知能、機械学習などの手法が開発され、地震研究にも使われています。また通信用の光ファイバー1本を10,000点の地震計に変える新しい計測手法DASなど、新しい計測手法も開発されています。



スロー地震とファスト地震

地震のガタガタとした揺れは、地下で岩盤が破壊して急激にすべり(ずれる)ことで発生します。でも岩盤はゆっくりすべることもあります。これが今世紀に発見されたスロー地震です。スロー地震と普通の地震(いわばファスト地震)との関係を調べるのが、この研究計画の目的です。

2つのタイプの地震は、どう違うのでしょうか?これまでの研究で、わかってきた違いをまとめるとこのような表になります。

	ファスト地震	スロー地震
原因	地下の岩盤のすべり(断層運動) (これは共通)	
最大規模 (震源長さ)	マグニチュード 9.5 (1000 km)	マグニチュード 7.5 (500 km)
最大の揺れ	約 1 G (重力加速度)	約 0.000001 G (全く感じない)
現象の期間	長くても 数分程度	数秒~数分~数日、 長いと一年
広がる速さ	音や弾丸より 速い	カメ~ヒトの 走る速さ



「Slow-to-Fast地震学」は日本全国の研究者たちによる
共同研究プロジェクト「スロー地震学」を引き継ぐ
研究プロジェクトです。
地球科学の様々な分野を横断した共同研究と
新しい研究技術の導入によって
地震現象の総合的理 解を目指しています。



Website



Facebook



Twitter



発行者:「Slow-to-Fast地震学」事務局

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1(東京大学地震研究所内)

2022年9月発行 ©学術変革領域研究(A)「Slow-to-Fast地震学」

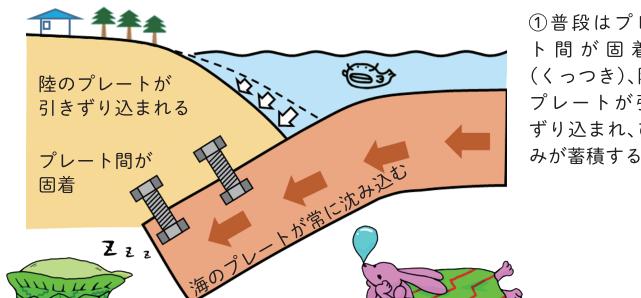
令和3~7年度 文部科学省 科学研究費助成事業
学術変革領域研究(A)「Slow-to-Fast地震学」

領域代表:井出 哲(東京大学大学院理学系研究科教授)

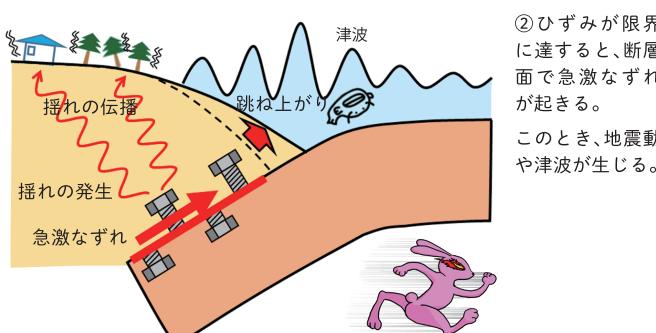
スロー地震とは？

地震は、地下の岩盤の「すべり」です。普通の地震ではすべりが急激に起きるのに対し、スロー地震は「ゆっくり」すべるので、地面はほとんど揺れません。そんなスロー地震が世界中で見つかってきました。

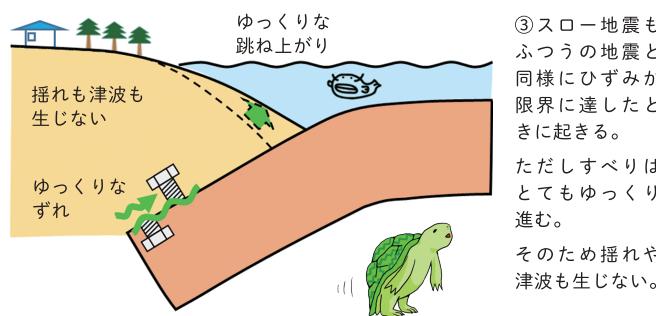
①プレート境界の普段の状態



②ファスト地震（普通の地震）

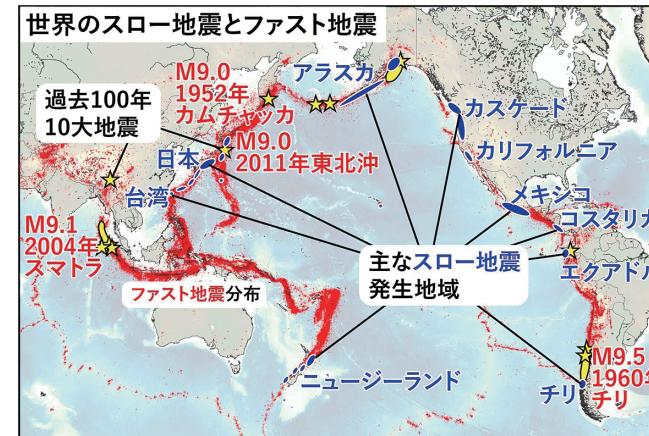


③スロー地震

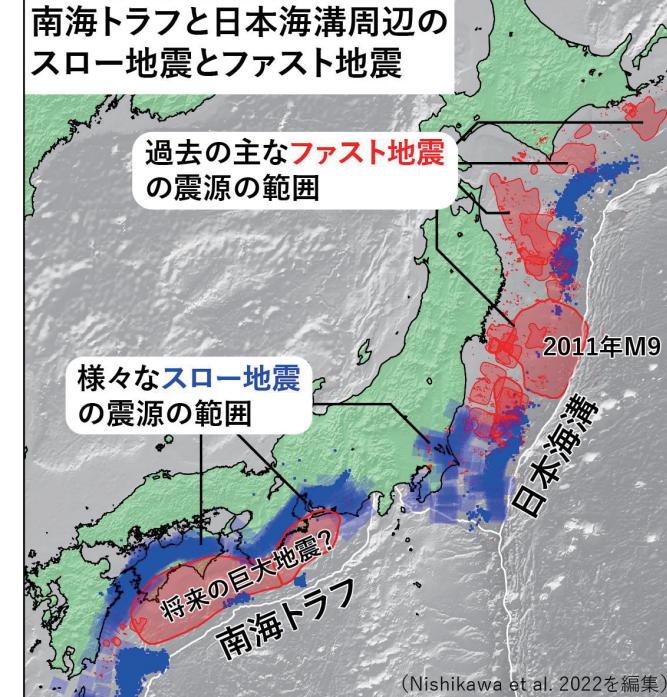


どこで起きているのか？

スロー地震もファスト地震も、原動力は地球上のプレートの動きです。だから世界中のプレート境界の近くで発生します（下図）。日本周辺では南海トラフ、日本海溝などのプレート沈み込み帶で、よく発生しています（右図）。



南海トラフと日本海溝周辺のスロー地震とファスト地震



地震の予測とスロー地震

いわゆる地震予知、巨大地震の警報を出せるレベルの正確な予測は現在できません。

「数十年間に起きる確率」というように、不確かさを含んだ予測が現実的です。より正確な現象の理解によって、不確かさを減らし、将来予測の力を高めることを目指しています。

例えば巨大地震の前には、何らかの準備プロセスがあり、それはスロー地震と関係あると考えられています。巨大地震の前にスロー地震がどのように発生するか、突きとめることはとても重要です。2011年東日本大震災では、M9の巨大地震の数週間から数日前に、プレート境界で、ゆっくりしたすべり（スロー地震）が2度起きました。このようなことがいつも起きるのでしょうか？

